

～世界的国家プロジェクトの支え～

エコチル調査福島ユニットセンター
センター長 橋本浩一

「5年目に突入」

桜の季節が再び巡ってきました。東日本大震災の直前に開始されたエコチル調査は平成27年1月で満4年となり、いよいよ5年目に突入しています。最初の年に生まれたエコチルキッズは4歳となり、春には幼稚園の年少組への入園です。エコチル調査は全国では目標の10万人を達成し、福島県では様々な思いの中で13,134人の妊婦さんにご協力をいただきました。ありがとうございます。この参加人数は福島県内の対象となる妊婦さんの「お二人に一人」にご協力をいただいていることを意味し、本調査へ寄せられている大きな期待と責任を感じています。10万人のリクルートが終了し、エコチル調査は子ども達が13歳に達するまでの長期のフォローアップの新たなステージに移り、また、昨年10月からは、全体の5%の方々に無作為にご協力をお願いする詳細調査が開始されました。5%の方々には昨年11月からご自宅の環境測定、そして本年4月からは病院での医学的検査、精神神経発達検査もお願いすることになります。

「10万人が一度に見える顕微鏡」

10万人を母集団に持つ研究の意味について考えてみました。人口1000人対で表すものとして、出生率、死亡率、人口自然増減率、婚姻率、周産期死亡率、有病率があります。一方で、人口10万人対で表すものとしては、主要死因別の死亡率、年齢調整死亡率、自殺死亡率、妊産婦死亡率、有病率があります。有病率は各疾患の頻度により人口1000人対であったり、10万人対で表すようです。つまりエコチル調査で得られるデータは概算値ではなく、実数値であり、10万人を一度に見ることができ顕微鏡を手元にあることを意味します。この10万人に寄り添い、ご協力いただき、「安心して安全な子育て環境」を未来の子ども達にプレゼントすることがエコチル調査の目標です。

「全世界が注目」

環境省がエコチル調査を実施するきっかけとなったのは、1997年に米国マイアミで開催されたG8環境大臣会合において「子どもの健康と環境」に関する宣言(マイアミ宣言)が出されたことによります。その後、世界でこの問題の重要性が再認識され、日本、デンマーク、フィンランド、アメリカが国家プロジェクトとして子どもの健康に関する疫学研究に取り組んでいます。

「世界的国家プロジェクトの支え」

福島のご家族のお一人おひとり、そして関係者の皆さまのご理解とご協力が世界的な国家プロジェクトであるエコチル調査を支えています。エコチル調査福島ユニットセンターは参加者の皆さまの様々な思いに寄り添い、関係者の皆さまと立ち止まることなく、一緒に子どもたちの成長を見守り、歩み続けてゆきます。

平成27年4月